

遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会の経過

資料2

第1回検討委員会 (H27.2.25)

生態系ネットワークの形成について

- (1)自然環境の現状と経年変化
- (2)保全・再生すべき環境と生物

生態系ネットワークの形成の推進について

- (1)推進に関する国内事例
- (2)流域自治体等の取組状況
- (3)遠賀川流域の推進計画案

- 流域の観点で議論
- 歴史・文化の視点も
- 指標種として長期的に大型鳥類、短期的に魚類
- 地域連携できる団体の抽出が必要

第2回検討委員会 (H28.2.22)

1. 遠賀川流域生態系ネットワークについて

- (1)遠賀川流域の現状と課題、遠賀川での取り組み、ネットワークの形成イメージ
- (2)検討委員会の位置づけ
- (3)ホットスポットの考え方、ホットスポット
- (4)目標(取組)の具体化
- (5)基本方針、整備内容(案)、ロードマップ(案)

- ネットワーク形成は点→線→面で広げボトムアップとする
- 直轄区間より上流域のデータも必要
- ホットスポットの質(植物の外来種等)
- 事業実施箇所のモニタリング
- 今後事業化する箇所の整理
- 地域連携先の情報が必要

第3回検討委員会 (H28.9.6)

現地調査

- (1)遠賀川本川の視察(河口砂州・干潟の視察、河口堰多自然魚道、中島自然再生事業、エコロジカルネットワーク再生事業)
- (2)遠賀川支川の視察(黒川、笹尾川、堀川、鹿毛馬川)

- ニッポンバラタナゴ等の生息環境であるワンド等が重要
- 河口砂州には海浜植物(ハマオモト)が生育
- 堀川など地域の利用の歴史、変遷も踏まえる必要がある
- 流域の観点から支川との連続性も重要

第4回検討委員会 (H29.2.6)

遠賀川流域生態系ネットワークについて(骨子)

- (1)遠賀川流域生態系ネットワーク構想の骨子(案)
- (2)整備目標、整備箇所について
- (3)流域自治体等との地域連携について

- 生態系NWの取組には自治体等との連携が重要
- 整備・取組には順応的管理が重要

第5回検討委員会 (H29.8.18)

遠賀川における生態系ネットワーク形成の促進に向けて(提案書)